ガソリンを安全に使うために

京都府福知山市でガソリン携行缶の使い方を誤ったため、多くの死傷者が出る爆発事故が発生しま した。

ガソリンは、蒸発しやすく、また非常に燃えやすい危険物です。

保管や取扱いには、細心の注意が必要です！

試験確認済証
1.0－250
L KHK Y
BOOX
危険物保安技術協会

基準適合表示

20リットル携行缶

[ガソリンの特性]

１　引火点はマイナス40度程度

寒い冬でも引火の危険性は「大」！

２　蒸発しやすく、蒸気は空気より重い

可燃性蒸気が床に溜まりやすく、広がりやすい！

３　電気を通しにくい液体

静電気が溜まりやすく、
放電すると燃え出す危険性あり！

[ガソリンの保管]

１　ガソリンは火災の危険性が非常に高いため、自宅等での保管は出来る限り控えましょう。

２　ガソリンを保管する場合は、火の気のない場所はもちろん、直射日光等で温度が高くならない場所で保管しましょう。

３　ガソリンを保管するときは、可燃性蒸気が漏れないように、キャップを確実に締めましょう。

４　静電気の蓄積を防止するため、金属製容器で保管し、土間に直接置きましょう。

５　ガソリンを灯油用のポリ缶で保管することは、非常に危険なので、絶対にやめましょう！

[ガソリン携行缶の安全な使い方]

１　給油するときは、火の気がなく、風通しのよい安全な場所で行いましょう。

２　キャップを外すときは、まず、エア調整ネジを少し緩めて、中の圧力を抜きましょう。

３　燃料タンクへ給油するときは、必ず、エンジンを切りましょう。

4　さびや変形のある携行缶の使用はやめましょう。

５　その他、取扱説明書の注意事項を守りましょう。

[ガソリンの取扱いに関する問い合わせは]

消防局予防課危険物グループ	TEL(076)280－2069
中央消防署予防グループ	TEL(076)280－5041
駅西消防署予防グループ	TEL(076)280－6094
金石消防署予防グループ	TEL(076)280－7037

「ヒクイドリのパッ君」